

長野「災害アーカイブ展」の視察

概要

日時：2020年11月25日（土）

調査地：2014年^{かみしろ}神城断層地震被災地
（長野県白馬村・小谷村）

概要：信州大学が取り組む「長野県で実施された災害アーカイブ展の視察」と「2014年長野県神城断層地震からの復興に関する調査」

災害アーカイブ展

災害の記録や記憶を保存・継承し、災害を「自分事として捉え、備えることを目的に「災害アーカイブ展～2014年神城断層地震から6年～」と「災害アーカイブ展～令和元年東日本台風から1年～」の二つのテーマで白馬村役場と小谷村役場にて開催された。今回の展示会は約1か月半かけ、長野県の市役所や図書館など公共施設を7ヶ所で開催され、展示には、「当時の被害や支援の様子がわかる提供された写真」「レジリエンストイレなど防災グッズの紹介」「信州大学を始めたとしたアーカイブの保存と活用の取り組みの紹介」があった。

白馬村・小谷村復興の取組み

白馬村・小谷村において、2014年神城断層地震の被害や地域の記憶を継承するために、2020年10月より被災箇所案内看板が設置されていた。看板のQRコードを読み込み、アーカイブ上で当時の様子を見ることができる。地域住民や役場との合意形成が難航したが無事設置が完了し、今後は復興のストーリーなども伝え、観光客にも地震の被害を知ってもらうための取り組みや看板の活用が必要だと考えているとのことだった。



災害アーカイブ展のポスター



案内看板